

今回公開した「自然災害伝承碑」代表事例

震嘯罹災記念
(北海道えりも町)



昭和8年(1933)3月3日未明、三陸沖で発生した地震による津波が幌泉村(現えりも町)を襲い、えりも岬地区、庶野地区を中心に大きな被害が発生した。津波は3回来襲し、3回目の波高は14.2mにも達し、死者13名、負傷者56名、家・建物の倒壊90棟などの被害があった。

津波の碑
(青森県三沢市)



平成23年(2011)3月11日、東日本大震災によって三沢市は7メートルを超える津波に襲われた。2名の尊い命が失われ、家屋188棟が大きな被害を受けた。この「津波の碑」には、東日本大震災記念碑と、昭和8年(1933)3月3日に発生した昭和三陸地震の震嘯災記念碑から移設した碑文が設置され、震災の記憶を後世に伝える。

東日本大震災復興記念碑
(福島県楢葉町)



平成23年(2011)3月11日、東日本大震災によって巨大地震・大津波・福島第一原発事故が発生した。この大災害により楢葉町は、犠牲者13名、浸水面積2.6km²、津波被災家屋125戸の被害を蒙った。復興への願いと希望の思いを記し、震災の記憶と震災で学んだ教訓を後世へ伝える。

豪雨災害の碑『七転び八起き』
(新潟県十日町市)



平成23年(2011)7月末、当地は時間降水量120ミリを超える観測史上最大級の集中豪雨に襲われ、晒川・田川の両河川の氾濫、田川の護岸の決壊、橋梁の損壊、溢れる濁流により床上浸水や建物の倒壊など、大きな被害を蒙り避難生活を余儀なくされた。

二十八災 堤防決潰之地
(京都府福知山市)



昭和28年(1953)9月25日、台風13号により正午から夕刻にかけて由良川上流では時間雨量30mm～60mmの降雨があり、総雨量は3日間で約500mmに達した。同日午後9時頃には和久市の堤防が決壊し、福知山市では死者4名、家屋流失・浸水家屋約5千5百戸を数えた。流域の綾部市、大江町(現 福知山市大江町)でも被害があった。

紀伊半島大水害慰霊碑
(奈良県五條市)



平成23年(2011)9月4日、台風23号による豪雨(紀伊半島大水害)により熊野川右岸の山腹が崩落。これにより対岸の宇井地区に土砂や河川の水が到達し、8名が死亡、3名が行方不明となった。この災害を後世に伝え、地域の発展を願って慰霊碑が建立された。

大地震・大津波の碑
(大分県佐伯市)



宝永地震 宝永4年(1707)10月4日(旧暦)、大津波襲来。津波の高さは浦代浦で約11m。浦代と色利で死者20名。
安政地震 嘉永7年(1854)11月5日(旧暦)、大地震、大津波襲来。津波の高さは約3m。浦代で死者1名。「津波は何度も襲う、急いで高いところへ逃げ上がる事」等の教訓が刻まれている。

明和大津波遭難者慰霊之塔
(沖縄県石垣市)



明和大津波は1771年(明和8年)、石垣島南東沖を震源とするマグニチュード7.4の地震による大津波で、先島諸島に甚大な被害をもたらした。津波に襲われた八重山諸島では死者・行方不明者が9313人にのぼった。